

## 2. 現況および課題の把握

### f. 避難所等

#### 【避難所】

家屋の倒壊や焼失等により生活が困難となった場合に一時的に避難生活を送る場所である。区民避難所の受入基準は、3.3 ㎡あたり 2 人（1.65 ㎡/人）。品川区地域防災計画では、避難所生活者数 87,418 人に対し、区全体の避難所の受入れ人員を 124,000 人と計画している<sup>53</sup>。

また、一般の避難者との避難生活を送ることが困難な寝たきりの高齢者や障害者等を保護するための施設として、福祉避難所を指定している。

ただし、避難所は原則区民の利用を想定しており、滞留者や帰宅困難者の利用は想定されていない。

図表 64 大崎駅周辺地域の避難所<sup>54</sup>、福祉避難所<sup>55</sup>

避難所名	所在地	構造	収容人員	主な補完避難所
日野学園	東五反田 2 丁目 1 1 - 1	鉄筋	3,488 人	清泉女子大
芳水小学校	大崎 3 丁目 1 2 - 2 2	鉄筋	1,312 人	立正大学
大崎中学校	西品川 3 丁目 1 0 - 6	鉄筋	948 人	立正大学
三木小学校	西品川 3 丁目 1 6 - 2 8	鉄筋	858 人	立正大学
御殿山小学校	北品川 5 丁目 2 - 6	鉄筋	2,335 人	総合体育館
(福祉避難所) 五反田シルバーセンター	東五反田 2 丁目 1 5 - 6	鉄筋	指定した者	—
(福祉避難所) 西五反田シルバーセンター	西五反田 3 丁目 9 - 1 0	鉄筋	指定した者	—
(福祉避難所) 大崎ゆうゆうプラザ	大崎 2 丁目 7 - 1 3	鉄骨	指定した者	—

## 【医療施設】

災害時における医療救護活動の拠点となる医療機関を災害拠点病院という。区内の災害拠点病院は、以下のとおりである。

大崎駅周辺地域では、東五反田5丁目のN T T東日本関東病院が、災害拠点病院に位置付けられている。

図表 65 災害拠点病院（令和6年3月現在）<sup>56</sup>

位置づけ	施設名	所在地	病床数
災害拠点病院	昭和大学病院	品川区旗の台1丁目5-8	815床
災害拠点病院	N T T東日本関東病院	品川区東五反田5丁目9-22	594床

その他、大崎駅周辺地域に立地する医療機関で、東京都防災マップに記載されているものは、以下のとおりである。

図表 66 大崎駅周辺地域のその他医療機関<sup>57</sup>

位置づけ	施設名	所在地	病床数
—	医療法人社団有仁会 阿部病院	品川区東五反田1丁目6-8	84床
—	大崎病院 東京ハートセンター	品川区北品川5丁目4-12	88床

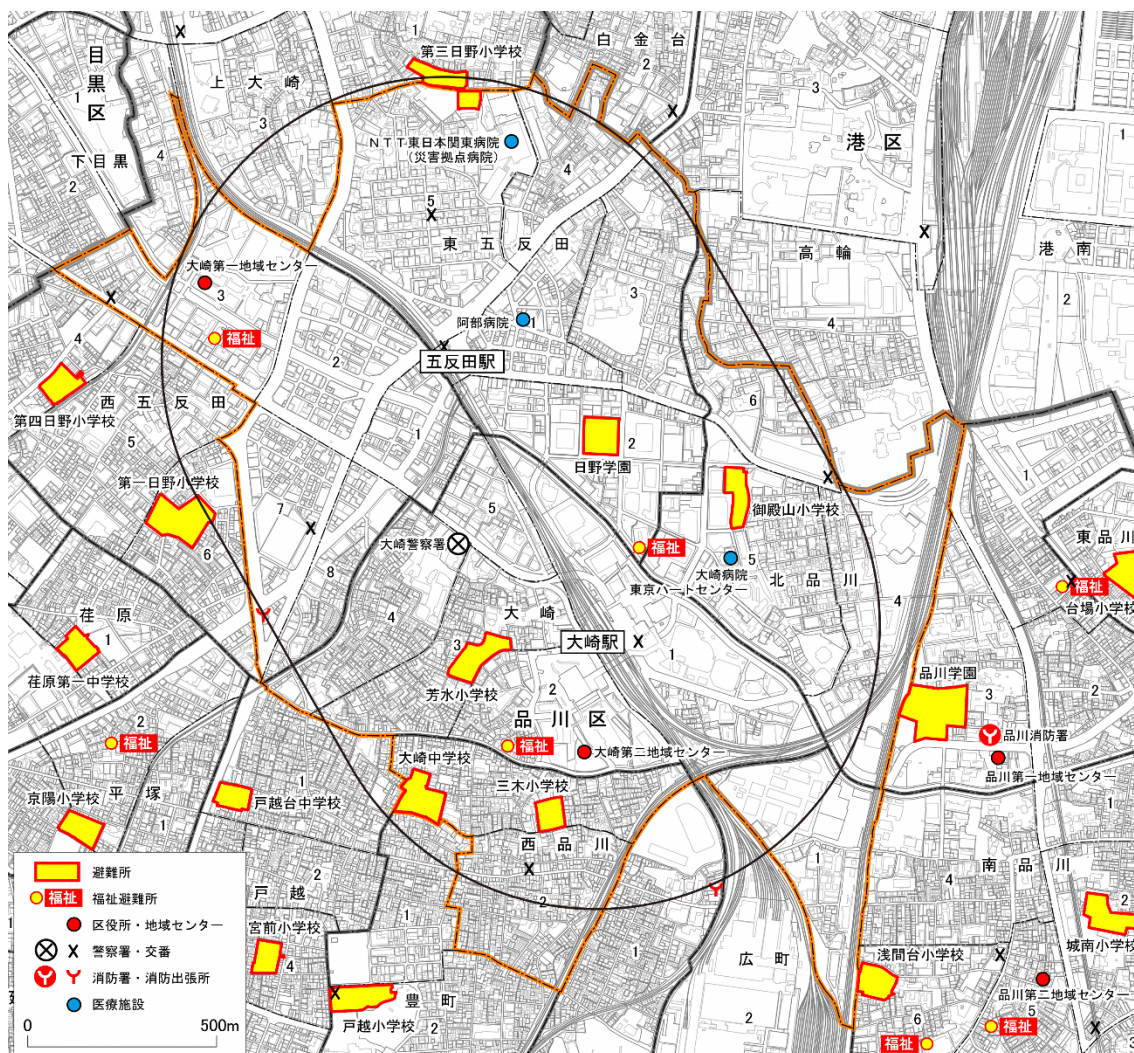
各地域センター管轄区域内の避難所（区立小中学校）のうち1ヶ所を医療救護所として指定しており、大崎駅周辺地域では、大崎第二地区に立地する三木小学校が該当する。

図表 67 医療救護所一覧<sup>58</sup>

管轄区域	施設名	所在地
品川第一地区	品川学園	品川区北品川3丁目9-30
品川第二地区	城南小学校	品川区南品川2丁目8-21
大崎第一地区	第一日野小学校	品川区西五反田6丁目5-32
大崎第二地区	三木小学校	品川区西品川3丁目16-28

## 2. 現況および課題の把握

図表 68 避難所、医療施設等<sup>1</sup>



## 【津波避難施設】

東京都が公表した「首都直下地震等による東京の被害想定」において、品川区には最大 2.38m の津波高が想定され、23 区最大の高さとなっている。津波からの避難は「高台」が基本とされるが、「避難する時間がない」「高台まで遠くて避難できない」などに備え、津波避難施設の確保が進められている。

津波避難施設とは、気象庁から東京湾内湾に「津波警報」「大津波警報」が発表された場合、その警報が解除されるまでの間、地域住民等が一時もしくは緊急避難、退避する堅牢な建物のことである。

大崎駅周辺地域における津波避難施設は、日野学園が該当する。

図表 69 津波避難施設（区有施設）一覧（令和 5 年 7 月現在）<sup>59</sup>

施設名	所在地	条件
日野学園	東五反田 2 丁目 1 1 - 1	
品川図書館	北品川 2 丁目 3 2 - 3	開館時間内
北品川児童センター	北品川 2 丁目 7 - 2 1	開館時間内
品川学園	北品川 3 丁目 9 - 3 0	
品川健康センター	北品川 3 丁目 1 1 - 2 2	開館時間内
北品川職員待機寮	北品川 3 丁目 1 1 - 1 7	
台場小学校	東品川 1 丁目 8 - 3 0	
城南小学校	南品川 2 丁目 8 - 2 1	

区と津波避難施設協定を締結している民間施設は、以下のとおりである。

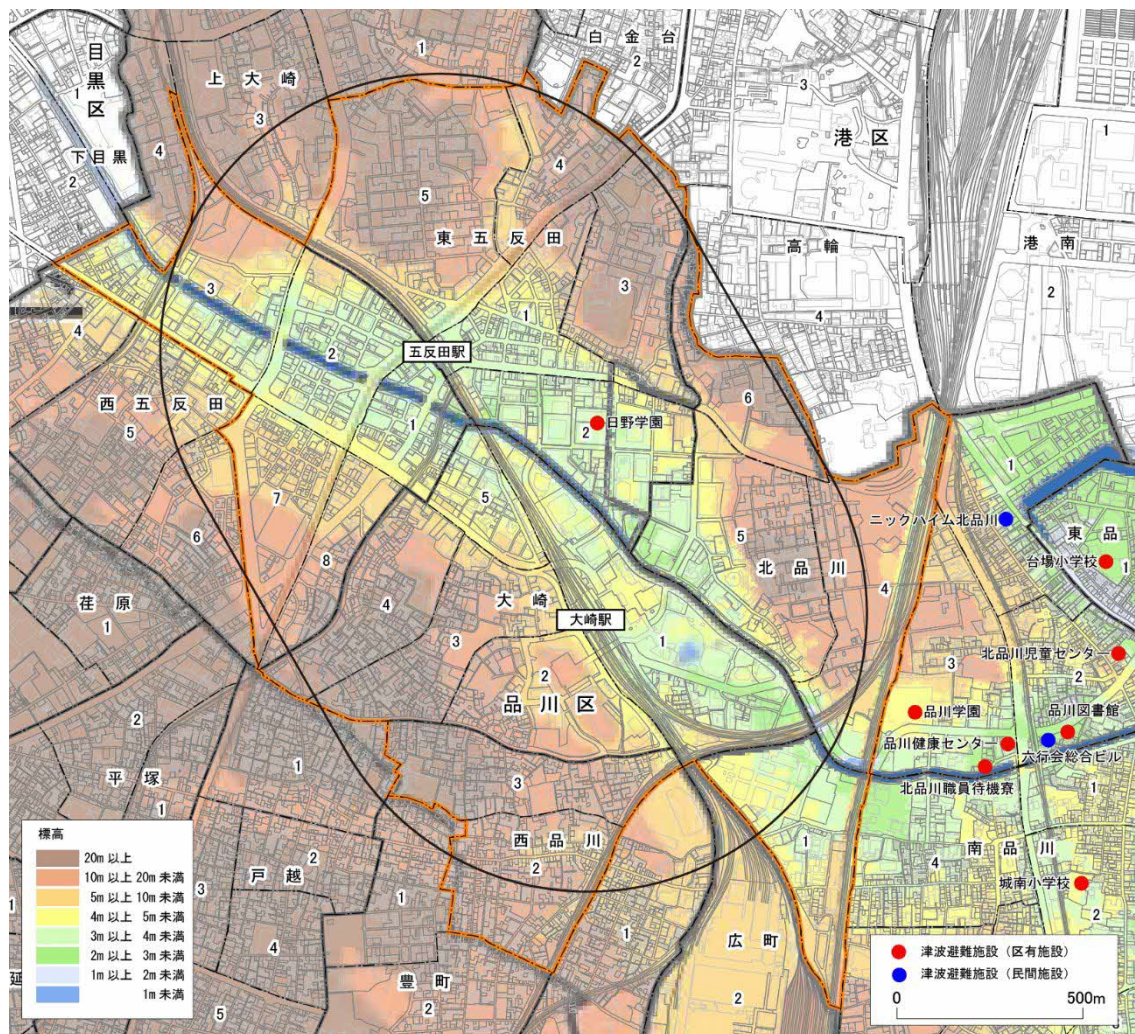
図表 70 津波避難施設（民間施設）一覧（令和 5 年 7 月現在）<sup>60</sup>

施設名	所在地	一時待機場所	条件
ニックハイム北品川	北品川 1 丁目 2 2 - 1 7	3～6 階 開放廊下	
六行会総合ビル	北品川 2 丁目 3 2 - 3	8 階 荏川倶楽部ラウンジ	業務時間内(品川図書館 の補完施設として)



## 2. 現況および課題の把握

図表 71 大崎駅周辺地域の津波避難施設 1,61



- ・大崎駅周辺地域は、海からの距離があり、目黒川周辺を除いては標高が高いため、津波の被害を直接受ける可能性は少ないと考えられる。
- ・大雨時等には、目黒川の水害に注意が必要である。
- ・大崎駅周辺地域は、首都直下地震等による津波浸水想定区域に含まれない。<sup>62</sup>



図表 72 (参考) 浸水ハザードマップ 1,63



図表 73 (参考) 高潮浸水ハザードマップ 1,64

